

Architalk: Global Architects シリーズ 2024 年度 事業報告書

Architalk は環境やテクノロジー、歴史、アート、コミュニティなど、さまざまな視点から建築・デザインが社会的に果たす役割や可能性について考える事業です。

当該年度は、下記のとおり国際的に活躍する 2 名の建築家を海外より招聘し、国際文化会館での講演会のほか、関西地区での講演会や日本の建築家との対話の場を創出しました。京都および東京での講演会をより多くの方に還元するために収録した講演会動画を一般に配信予定。

① フランシス・ケレ(建築家)

フランシス・ケレは、最初のプロジェクトである故郷ブルキナファソのガンドの小学校(2004 年)でアガ・カーン賞建築部門を受賞。2022 年にはアフリカ人建築家として初めてプリツカー建築賞を受賞。ケレ氏は、デザインに対する共同体的なアプローチの先駆者であり、持続可能な素材や建築様式へのコミットメントによって、現在最も著名な現代建築家の一人。その土地の特殊性や社会的なつながりに触発され、ベルリンを拠点としながらも 4 大陸にまたがるプロジェクトを手がけている。主なものに、ベナン国会議事堂(建設中)、ダカールのゲーティンストイトゥート(建設中)、レオ外科クリニック&ヘルスセンター(2014 年)、リセ・ショルゲ中等学校(2016 年)、サーペンタイン・パビリオン(2017 年)、ティペット・ライズ・アート・センターのギャザリング・パビリオン、ザイレム(2019 年)などがある。

主催:公益財団法人 国際文化会館

助成:一般財団法人 MRA ハウス／一般社団法人住環境財団

東京講演会

ご講演テーマ:「Bridging the Gap (Climate, Culture, Material & Architecture)」(ギャップを埋める力(気候、文化、マテリアル、そして建築))

モデレーター:長谷川祐子(国際文化会館アート・デザイン部門ディレクター招待)

ゲスト・コメンテーター:妹島和世(建築家/SANAA)

開催日:2024 年 11 月 22 日

参加者数:161 名

(Youtube 配信日予定:2025 年 3 月 28 日)

<https://www.youtube.com/watch?v=MRh-mPpfoEY>



世界的な建築家で 2022 年プリツカー賞受賞のフランシス・ケレ氏をお招きし、講演会を開催することが決定いたしましたのでご連絡させていただきました。当日はゲスト・コメンテーターとして SANAA の妹島和世さんをお迎えし、世界各地で気候変動による様々な影響がある中、これからのサステイナブルな建築デザインについてお話しいただきました。

ショート動画インタビュー

海外の著名なアーティストや文化人が来日した際に、アートデザイン部門の長谷川祐子との対談を収録し配信する信国際文化会館動画シリーズ「Ça va?」においてもケレしにご登壇いただき、建築家を志すことになったきっかけなどのインタビューをうけていただきました。

(Youtube 配信日予定:2025 年 3 月 28 日)

<https://www.youtube.com/watch?v=GRuHRgqQFq0>

② 徐甜甜氏

徐氏は中国の農村活性化プロセスに幅広く携わってきた。氏の画期的な「建築鍼灸」は、中国の農村の社会的・経済的活性化に対する総合的なアプローチであり、国連ハビタットによって「都市と農村の連携に関するインスピレーション・プラクティス」のケーススタディに選ばれている。作品には、松陽県における工場のモダンリノベーションや記念ホールのデザインによる地方ツーリズムの促進、北京郊外のアーティストコミュニティである Songzhuang Art Colony のアートセンターのデザイン、福建省の客家土楼のリノベーション、浙江省にある長江をまたぐ橋の再構築など、地方におけるコミュニティの再構築と活性化を主眼としているものが多数。2006 年と 2008 年の WA China Architecture Award、2008 年の Architectural League New York's Young Architects Award、2009 年の Architecture Record による Design Vanguard Award、2019 年の Moira Gemmill Prize for Emerging Architect、2023 年の Global Award for Sustainable Architecture など数々の賞を受賞。2020 年にはアメリカ建築家協会の名誉フェローに任命された。ハーバード大学大学院で都市デザインにおける建築学修士 (MAUD)。清華大学で建築学士を取得。

主催:公益財団法人 国際文化会館

助成:一般財団法人 MRA ハウス／一般社団法人住環境財団

東京講演会

ご講演テーマ:「万物～生きたシステムとしての建築」

スピーカー:徐甜甜(建築家)

ゲスト・コメンテーター:塚本由晴(建築家、東京科学大学教授)

モデレーター: 長谷川祐子(国際文化会館アート・デザイン部門アドバイザー)

開催日: 2025 年 3 月 7 日

参加者数: 95 名

(Youtube 配信日: 2025 年 5 月予定)

「建築とは、景観、文化的伝統、地域経済、そして万物を統合する、地域の文脈に組み込まれた生きたシステムといえます。全ての物事の一体性と相互依存性を強調する道教の“万物斉同”(宇宙)の思想のように、私たちの建築環境は、社会的、経済的、生態学的な枠組みを包含する相互連結システムであり、自然と人間との関係や、私たちの文化的そして祖先からのつながりを再確認させてくれます」と語る徐氏。

都市部への人口流出で過疎化が進む地方。その解決のため、建築を通じた地域の再活性化や新しい観光の創出を試みる徐さんに、建築で文化と産業を結びつける可能性についてお話いただきました。

京都講演会

「集団的記憶としての建築」

スピーカー: 徐甜甜(建築家)

モデレーター: 河井敏明(建築家、京都精華大学教授)

会場: メディアショップ ギャラリー

開催日: 2025 年 3 月 4 日

共催: 公益財団法人 国際文化会館、京都精華大学

助成: 一般財団法人 MRA ハウス／一般社団法人住環境財団

参加者数: 約 50 名(主に関西在住の建築家、アーティストほか)

2025 年 4 月末に収録した講演会の動画を Youtube にて配信予定



福建省の伝統的な客家族の建築デザインや昔の採掘場のもともとの造形をいかし、地域や訪問者の集団的記憶や歴史を残すことを目的としてミニマルな建築介入を心掛けている徐氏の建築作品のご紹介と思想についてお話いただきました。



徐氏には日本ご滞在中、2つの講演会にご登壇いただいたほか、京都の伝統的な町屋や借景をいかしたお寺、直島のアートギャラリーや高松にて丹下健三デザインの香川県庁舎や香川県アリーナなど訪問し、日本の近代、現代の建築について知っていただく機会をつくりました。また、関西地域の建築家との懇親の場も提供しました。